



花・緑・川! 人気の城北公園

写真:小椋

「城北公園」、「千林の長屋」、「淀川城北ワンド」は、平成22年3月5日(金)に大阪市の都市景観資源に登録されました。



■城北公園正面

城北公園と淀川

旭区の北西を流れる淀川は、琵琶湖から瀬田川を経て、京都で★三川(宇治川・桂川・木津川)合流をし、枚方市・寝屋川市・守口市そして旭区へ滔々と流れ、城北公園を潤します。淀川は、城北公園から約2 kmほど下流の毛馬で、南の大阪都心に向かう大川(旧淀川)と新淀川に分流する。

明治18年～治水改修へ

古代より淀川は、水量も豊かで沿岸は農作物にめぐまれるが、洪水の被害が多く暴れ川であった淀川の歴史は、「治水と改修の歴史」といえる。

近代の明治18年左岸の洪水は、生駒山の麓まで押し寄せ大被害となる。

その後も度重なる被害に淀川の改修計画が始まり、大阪の治水王★大橋房太郎(当時の府会議員)の熱心な運動・陳情により明治29年度から10年間の改良工事の予算が議会を通過した。大阪治水港湾工事の父沖野忠雄、オランダ人技師J・デレーケ、J・A・エッセル等、又多くの人の力により、機械力も今ほどではなかった河川堤防工事は困難を極めたが、工事期間は延長されつつ明治43年に竣工します。

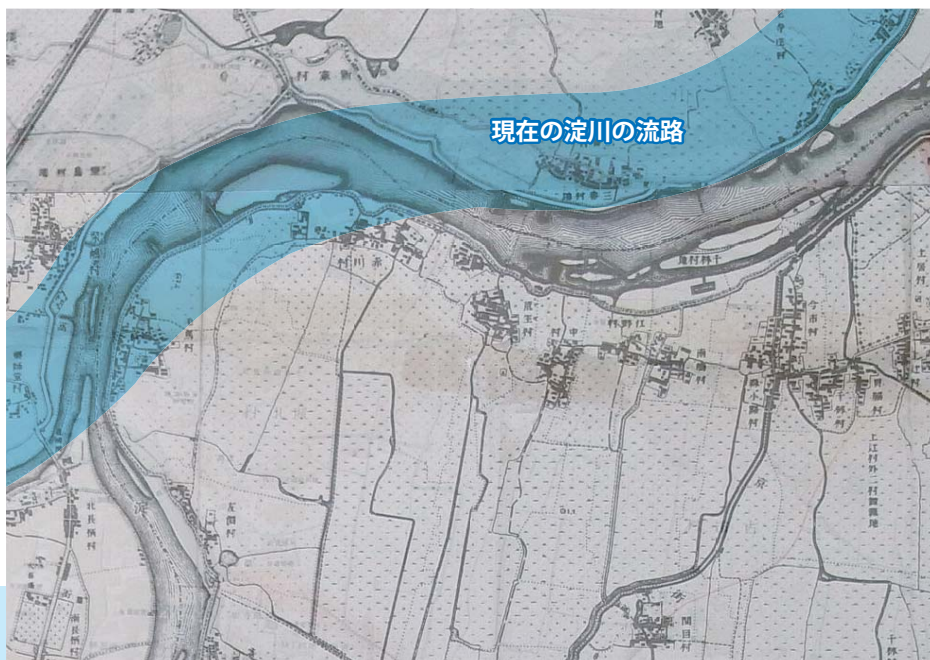


■明治18年の大洪水(現在の城東区～東成区)
(写真:(財)大阪市都市工学情報センター)



■明治18年の大洪水(現在の都島区)
(写真:(財)大阪市都市工学情報センター)

そして淀川改良工事は、守口中心部から現城北公園までの湾曲していた**本流を直線的**にし、下流放水路の中津川流域に付け替え、いま**新淀川**と呼ばれている。



■ 淀川流路の変化(地図は明治20年頃)
(資料:大阪市史編纂所)

治水改修～公園へ

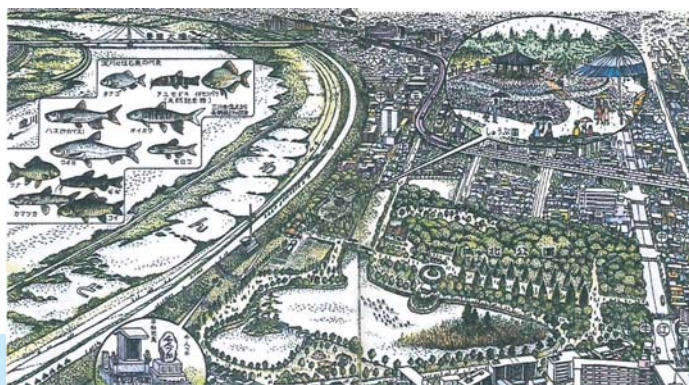
明治の大改修により守口市役所から太子橋一帯・中宮一部・生江一部辺りの昔の淀川河川敷地域は、**堤防の外に取り残され**、旭区部分の大小**水溜り**や水面の多い**空地**が**城北公園**になりました。

その後、小支流の江野川を利用して、園内に植えられたのが**菖蒲**！今や市内一番の**菖蒲園**となり、**城北公園**には欠かせない公園の大見所です。**園内の大池は淀川本流とともに、釣り人にも人気のスポット**となっている。

改良工事のときにできた公園下川岸の★ワンドは、淡水魚の宝庫でしたが、近年は外来の魚や草が多くなり、淀川の自然を守る環境保護とエコの声が高まっている。



■ 昭和9年頃の淀川(資料:大阪市史編纂所)



■ 城北公園とワンド(資料:「淀川絵巻」保育社)



左■菅原城北大橋
右■豊里大橋

旭区の大自慢の**淀川は、豊かに流れ**！

旭区流域に、★**菅原城北大橋**と★**豊里大橋**の美しい**斜張(シャチョウ)橋が2橋**！(市内に斜張橋は**全6橋**)
Wで市内交通に役立ち、遠景・近景ともに朝夕、すばらしい景観です。